

林材安全

No.910

2024

12

Dec.

特集

- ◎和歌山で労働災害撲滅への決意を新たに！
— 第60回全国林材業労働災害防止大会開催 —
- ◎木材産業における労働災害の現状と
今後の対策方法について考える
- ◎個人事業者等への労働安全衛生規則等の適用



令和6年度 実践的リスクアセスメント導入 のための集団指導会

リスクアセスメントへの参加で危険に対する感受性を 高め実践できる対策を考える

当協会では林材業における労働災害を未然に防ぐために有効な対策の一環として、平成27年度から林材業向けの演習を主体とした実践的リスクアセスメントの集団指導会を実施してきました。

林業、木材製造業ともに各地で無料の指導会を開催しています。

林業における死亡災害を見ると、中高年齢者・新規就業者の割合が非常に高いことから、リスクアセスメント研修の中で、一般労働者に加え、高齢者及び新規就業者の特徴にも着目したリスクやエラーを把握・認識していただけるような研修を実施することとしています。

そこで今月号では、令和6年9月26日に行われた神奈川県支部の集団指導会【林業】について、どのような内容の講義、演習が実施されたのか、参加者の感想も交えてレポートをお届けします。

実施報告

林災防神奈川県支部【林業】

開催日時	令和6年9月26日(木) 13時～17時
会場	松田町生涯学習センター 展示ホール (神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 2037)
参加者	27名
講師	林材業安全技能師範 目時敬之氏
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林業・木材製造業労働災害防止規程と高年齢作業者の安全・健康確保 2. リスクアセスメントの基礎知識及び簡易リスクアセスメント記録書(林業)の利用法 3. 簡易リスクアセスメントの演習 4. 修了証授与

林材業労災防止協会神奈川県支部により「実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会(林業)」が令和6年9月26日(木)に松田町生涯学習センター展示ホールで開催されました。

神奈川県支部の鈴木宏幸事務局長の進行で



会場となった松田町生涯学習センター

定刻の13時よりスタートし、はじめに配付資料の確認とカリキュラムの説明、時間割が伝えられました。



鈴木宏幸事務局長

次に林材業防止協会神奈川県支部の安藤哲史副支部長より挨拶がありました。「神奈川県において全業種における死亡災害は近年増加傾向にあります。労働災害において重大な災害は紙一重です。今日のリスクアセスメント手法を勉強し、実践することが安全な作業につながります」とリスクアセスメントを実施して作業の危険要因を洗い出し、対策を取った作業を行うことが重要だと強調しました。



安藤哲史副支部長

次に小田原労働基準監督署の本間公紀署長より挨拶がありました。「管内の令和5年の労働災害は休業4日以上が発生状況が384件と減少傾向とはなっておらず、死亡災害も7件となっています。



本間公紀小田原労働基準監督署長

林業の令和5年の休業4日以上は7件発生し、前年の3件から大幅に増加しており、令和6年もすでに5件発生しています」と述べ、林業が千人当たりの労働災害発生率が全業種の10倍を超えている業種であることを再認識し、伐木作業時の災害が多いことから「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」(平成27年12月7日付け基発1207第3号)の内容を遵守した作業手順となっているか、あらためて確認することが重要だとしました。

また、神奈川県内の昨年の職業性疾病を見ると、熱中症による死亡災害が1件発生していることから、熱中症予防対策の引き続きの対策と、蜂刺されによるアナフィラキシーショックで2名の方が亡くなったことを受けて、作業前の現場の確認と刺された場合でも重症化を防ぐために自己注射器を使用するなどの迅速な対応が肝心だと注意喚起を行いました。

1 防災規程の概要について学ぶ

「第1部 林業・木材製造業労働災害防止規程と高年齢作業者の安全・健康確保」では林災防本部の福嶋貢史安全管理士が講師を務め、講義用の資料を配付して説明を行いました。「防災規程」は労働安全衛生法を上回る林業における安全衛生対策が定められていることや令和5年12月に変更された内容について解説し、会員はその内容を遵守した作業を行わなければならないことを説明しました。

続いて、林業における労働災害で高い割合となっている新規就業者と高年齢労働者の労働災害防止のためにその特性と対策について説明が行われました。新規就業者の



福嶋貢史安全管理士

特性として“安全に対する知識が不足している”ためにとってしまう不安全行動の対策や、伐木初心者に対する職場内研修の重要性について説明を行いました。

さらに高年齢作業者の特性として“作業の慣れ”による危険の軽視に対する対策や健康や体力を把握した作業への配慮が重要だと述べ、その取組として経営トップの取組姿勢など7項目をあげて説明しました。

「最後になりますが、安全というのは決められたことはきちんと守る、やってはいけないことはやらない、というのが基本になりますので、これから寒くなってくると作業も大変になりますが、十分に体調や安全に気をつけながら作業をお願いしたいと思います」と呼び掛けました。

2 リスクアセスメントの概要を学ぶ

「第2部 リスクアセスメントの基礎知識及び簡易リスクアセスメント記録書(林業)の利用法」及び「第3部 簡易リスクアセスメントの演習」は林材業安全技能師範である目

時敬之講師により講義と演習が行われました。

講義はテキスト「リスクアセスメント実践マニュアル（林業版）」を使用して行われ、目時講師は「「リスクアセスメント」



目時敬之技能師範

の“リスク”とはなんでしょうか」とはじめに問いかけました。「わかりやすく言い換えてみると、危険があってそこに被害が発生するおそれがある、それが“リスク”というものになります」と述べ、講習会で学ぶ「リスクアセスメント」の言葉の定義から説明を行いました。

「規模の大きな事業体だと労働災害が発生するとその事例を水平展開して共有し、対策を考える機会もありますが、林業の場合は10人以上の事業体は多くないため、近隣で発生した労働災害情報をすぐに共有することが難しい現状となっています。このことから、危険感受性を高めて対策が取れるように事前に勉強しましょう、という場が今日のリスクアセスメント集団指導会となっています」と話し、作業のリスクを洗い出し、対策を取ることができるように演習で訓練する重要性を強調しました。

3 グループワークでリスクアセスメントの対策を考える

休憩を挟み、演習では6班に分かれてテキストの「簡易リスクアセスメント記録書」の事例に描かれたイラストの状況から危険を洗い出し、可能性と重大性のリスクレベルとその対策の話し合いが行われました。目時講師からは「今日のルールとして1つお願いがあります。グループの中にベテランの方がいる場合は、他の方の意見をいったん受け入れてあげてください。現実的にお金がかかる、などはその次にして話し合いをお願いします」と、どの立場からも意見が出しやすいように提案が行われました。

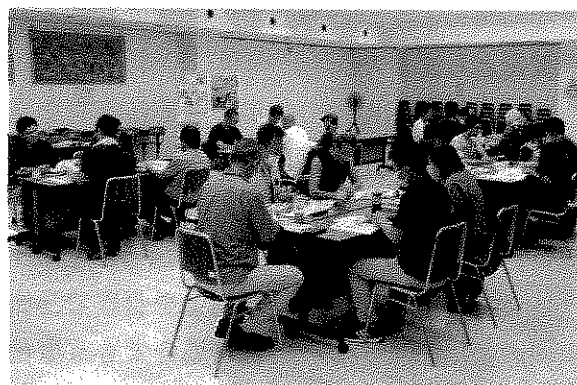
発表者は、はじめに対象者が①全作業員、②高齢者、③新規就業者の事例なのか、次に作業内容を述べてから発表を行い、他のグループの参加者も一緒に考えられるようにして発表は進んでいきました。

ハチ刺され予防の事例の発表では、災害の重大性を低く見積もっているのではないかと目時講師は指摘し、「今までハチの被害が少ない地域でしたか。ハチ刺されによる重症化は病院に運ばれるような症状も出ますよ。新規就業者の場合はハチ刺されによるリスクを低く見積もっているかもしれません。他の作業もそうですが、新人は危険の重大性を認識していないかもしれないので、作業前に作業の危険・リスクを見積り、対策を講じてから作業を開始することが重要です」と述べました。

また、全作業員共通のかかり木処理事例の発表では「イラストのように木の近くではなく安全な位置から確認することがまずは基本です」と普段の安全な作業が垣間見られる発言や作業員への安全教育の重要性を強調する発表が行われました。

各グループの発表が終わる度に温かい拍手が沸き、良い雰囲気での演習の発表は終了しました。

目時講師からは「今日勉強したことを事業体に持ち帰ってリスクアセスメントを実施し、普段の行動を見直して安全な作業に活かしてください」と要望が述べられ、演習は終了しました。



受講者はグループごとに事例を話し合い、発表には熱心に耳を傾けていた。

最後に福嶋安全管理士から「今日の演習内容を職場の全員で見直し、色々な事例を検討することで危険性を認識できるようになります。リスクマネジメントの実施を職場で取り入れ、リスクを低減し、対策を講じて労働災

害の未然防止にご協力をお願いいたします」と総評が述べられました。

講義終了後にアンケートを記入する時間が設けられ、参加者に修了証が授与され集団指導会は滞りなく終了しました。

講師と受講者の声より

林材業安全技能師範 目時敬之講師

実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会を終えて

ここ、3・4年で参加者の中に職場でリスクアセスメントを実施したという声が聞かれるようになり、まず保護具が整備されたなどの変化を耳にするようになりました。今回の集団指導会参加者の4分の1の方が「リスクアセスメント集団指導会」の複数回参加経験をお持ちでありました。このような方々に助けられ、「演習」の中のグループ討議では、熟練者の「暗黙知」の共有が思った以上に円滑に図られ、新規就業者への教育的効果も高いものとなりました。

神奈川県のおいゆる「高性能」林業機械はこれから普及すると言っても差し支えません。普及時にはあらたなリスクが発生するため、机上訓練といえども将来のリスクにあらかじめ知識面で備えておくことは重要と考えております。

今後も関係者のご協力を得て実践的リスクアセスメントの一層の普及につとめてまいりたいと存じます。



愛川町森林組合 理事兼参事 大野晋作さん

現場作業者ではなく管理者として参加させていただき、講師の方の説明やグループ演習での様々な立場での意見を聞き、労働災害防止のためにリスクアセスメントの実践の重要性を改めて感じました。

特に新規就業者や高齢者がいる場合は、そ

れぞれの特性を踏まえたリスクアセスメントの作成が重要であることを再認識いたしました。

今回の集団指導会の内容を再確認しながら、労災の無い環境づくりを目指していきたいと思います。

小田原市森林組合 技師 木村雅也さん

今回集団指導会を受講して、リスクアセスメント導入についての経緯や、林業における労働災害の現状と特徴についてとても分かりやすく教えていただきました。私自身は作業員ではなく、管理や調査がメインとなるため、作業をしている方が感じることは少し違った視点から学ぶことができたと思います。どのようにしたら作業をする方がリスクアセスメントに取り組みやすいのか、図から事故のリスクを洗い出す際、作業をしない側からはどのような危険を発見できるか、調査で山を歩く際などにどのような危険があり、低減対策を行えるのかなどを考えるとともに、作業員とは別視点の危険の発見ができるのではないかと感じました。

当組合では、月に一回リスクアセスメントを実践しているが、高齢者・新規就業者の特徴に着目した内容についてはあまり重要視していないため、今回グループワークでいろいろな考え方や視点を得られたので、今後実施する際に、高齢者・新規就業者にとってはどこがリスクになるかということも出し合うようにすれば、より発見が増え、今後の作業の中で少しでも役に立つのではないかと感じました。

林業という労働災害が多い仕事の中で、少しでも労働災害を減らしていくことができれば林業のイメージアップにもつながると思うので、今後もこのような講習会があれば積極的に参加したいと考えています。